

9. レーザー光散乱粒子測定法による2型糖尿病患者の血小板自然凝集能の評価—短期血糖コントロールとアディポネクチンの影響—

¹獨協医科大学越谷病院 糖尿病内分泌・血液内科 ²獨協医科大学 内科学(内分泌代謝)

鈴木達彦¹, 原 健二¹, 堀 賢一郎¹, 石橋正太¹, 渡邊杏子¹, 寺沢智子¹, 成瀬里香¹, 竹林晃三¹, 森田公夫¹, 麻生好正², 犬飼敏彦¹

【目的】2型糖尿病(DM)患者に観察される, アゴニストによる刺激のない自然な状態での血小板自然凝集(SPA)の規定因子を明らかにし, 短期間の血糖コントロールおよびアディポネクチンのSPAへの影響を評価した.

【方法】①20人の健常者と82人のDM患者の血小板凝集能について比較検討した. ②DM患者20人を対象に, 2週間の入院による血糖コントロールの前後で, SPAと血清アディポネクチン値の変化を評価した. ③健常者5人とDM患者5人より抽出した洗浄血小板にアディポネクチン(20 μg/ml)を添加し, SPAの変化を検討した.

【結果】①DM患者において, SPAは健常者に比し有意に増加していた. SPAは血漿フィブリノゲン(Fbg), 高感度CRP, グリコアルブミン, 高感度CRPと正の相関を示し, step-wise多変量解析では, 血漿FbgがSPAの最も強い独立寄与因子であった. ②2週間の血糖コントロールで, SPAは有意に減少した. 治療前後でのSPAと高分子量アディポネクチンの変化度には有意な負の相関関係を認めた. ③アディポネクチン添加により, SPAが抑制された.

【考察と結論】DM患者ではSPAが亢進しており, SPAの独立寄与因子として高Fbg血症と急性期の高血糖が示された. 本研究では, DM患者において, SPAと空腹時血糖値およびグリコアルブミンとは有意な正の相関を示したものの, HbA1cとは相関を認めなかった. グリコアルブミンは, 約2週間の短期間の血糖を示す指標であることから, HbA1cよりも短期の平均血糖を反映すると考えられる. 従って, SPAは長期の高血糖状態よりも, より急性期の血糖管理状態に影響される可能性が示唆された. 実際, 本研究において短期間の血糖コントロールでもSPAは有意に減少した. 更に, アディポネクチンは直接的にSPAの形成を抑制することが実証された.

11. ピタバスタチンとアトルバスタチンの冠動脈プラーク安定化作用の比較—短期および中期での検討—

内科学(心臓・血管)

戸倉通彰, 田口 功, 景山倫也, 那須野尚久, 米田秀一, 小田和彦, 阿部七郎, 井上晃男

【目的】急性冠症候群(acute coronary syndrome: ACS)症例にピタバスタチンまたはアトルバスタチンを投与し非責任病変をvirtual histology-intravascular ultrasound (VH-IVUS)で評価した.

【方法】緊急冠血管形成術を施行したACS 114例にピタバスタチン(n=57; 2mg/day)またはアトルバスタチン(n=57; 10mg/day)を投与し入院時及び投与2-3週間後(短期)さらに約10カ月後(中期)にVH-IVUSを用いて非責任病変一病変のプラーク性状の評価を行った.

【結果】血清脂質はピタバスタチン投与群, アトルバスタチン投与群ともに有意に低下した. 冠動脈プラークは短期ではピタバスタチン群のみ総プラーク容積と脂質性プラーク容積の有意な減少を認め, 中期では両群ともに総プラーク容積と線維性プラーク容積が有意に減少した.

【結論】ピタバスタチンの冠動脈プラークに対する退縮効果はアトルバスタチンと比べ中期では同等であるが短期ではより優れていることが示唆された.